

映画業界における 映画人口拡大の必要性と拡大策

本田 和也

要 旨

第 1 章 本論文の作成にあたって：現在、日本の映画市場は飽和状態にあり、それを示すように映画館の年間観客動員数(映画人口)は伸び悩んでいる。本論文では映画人口の伸び悩みの原因を明確にし、映画人口の拡大策を提案する。

第 2 章 日本映画業界の構造：映画業界は制作、配給、興行に携わる 3 者を中心に構成されている。現在の邦画では制作側のリスクはとて大きく、興行以外でのビデオソフトやテレビ放映による収益が重要になっている。

第 3 章 日本映画業界の変化：近年の邦画の躍進にはテレビ局の映画参入、製作委員会の普及、シネマコンプレックスの躍進の 3 つが大きく影響している。

第 4 章 映画人口伸び悩みに対する取り組み：一見、映画業界は好調のように見えるが、映画人口は伸び悩んでいる。日本映画業界では映画館での割引サービスの強化により映画人口拡大を狙っている。

第 5 章 映画人口伸び悩みの原因：映画人口の伸び悩みの原因として「映画コンテンツの多様化」、「映画通常料金の硬直化」、「ビデオソフトの早期リリース」、「映画人口の特徴の不明確さ」の 4 点が密接に関係していると考えられる。

第 6 章 分析対象と調査方法：本論文では「映画館で映画を観る人」と「映画館で映画を観ない人」の特徴を明確化するための調査を実施し、その結果を踏まえて、リピート頻度の増加と新規顧客の増加へのプランを模索する。

第 7 章 調査結果の分析と考察：調査の結果、映画館での鑑賞が少ない映画好きは、映画館へ行くことを気軽なものと考えていないことが明らかになった。

第 8 章 映画人口伸び悩みの打開策：新規顧客獲得への提案として、映画館へ行くことを「より気軽なものに」。既存の映画人口のリピート頻度の増加には「様々なジャンへの興味および鑑賞」を促すことが必要であると考えられる。